

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 6月 19日

【評価実施概要】

事業所番号	0770800340		
法人名	医療法人社団 小野病院		
事業所名	医療法人 小野病院 グループホーム レインボー		
所在地	福島県喜多方市関柴町上高瀬字広面 673-6 (電話) 0241-22-2300		
評価機関名	福島県社会福祉協議会		
所在地	福島県福島市渡利七社宮111		
訪問調査日	H20.6.19	評価確定日	H20.7.25

【情報提供票より】(20年 4月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14年 4月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤	人, 常勤換算 6人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨	造り
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	860 円		

(4) 利用者の概要(4月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	2 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5		要支援2			
年齢	平均 87 歳	最低 74 歳	最高 97 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人社団小野病院及び松崎歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広い共有空間、居室の中で、利用者は職員と一緒に協力しあって生活している。利用者との「関わりの時間」を設けるなどして、利用者の思い、意向の把握に努め、ケアに活かしている。協力医療機関との連携により、利用者、家族に、健康管理や医療面で安心感を与えている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	全職員で改善に向けた話し合いを行い、運営理念の見直し、アセスメントシートの見直し等の改善が図られた。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価の内容を1項目ごと職員全体で話し合いを行った。日々のケアの振り返りの場にもなり、サービスの質の向上にもつながっている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5)
	重度の利用者への対応、災害時における地域住民の協力等について意見交換を行い、運営に活かしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	意見、要望を自由に出してもらえるように意見箱、ノートを置いているが意見等は出されない。面会時や電話連絡等の際に意見・要望を出してもらうように努めている。利用者の衣類の管理等について出された意見等は運営に反映させている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	町内会に加入し、町内清掃に参加したり、地域での催し物等へ積極的に参加している。

2. 評価結果(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加え、地域密着型サービスとしての役割を踏まえて、地域の方々と共に、その人らしい暮らしが継続できるように支援していくという理念を職員全員で話し合っ て作り上げた。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	どうしたら地域密着型サービスとしての役割を果たせるかを話し合っている。日常業務の中でも、折に触れて理念に沿ったケアの実践について話し合い、取り組みを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入し、町内清掃に参加したり、地域での催し物等へも積極的に参加している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を報告し、全職員で改善に向けた話し合いを行い、理念や、アセスメントシートの見直し等改善に取り組んだ。自己評価は職員全員で1項目ごとに話し合いを行った。日々のケアの振り返りの場ともなりサービスの質の向上につながっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>活動状況、外部評価等を報告し、重度化の対応や、災害時におおける住民の協力等について意見交換を行い運営に活かしている。しかしながら2ヶ月1回の定期的な開催となっていない。</p>		<p>地域との連携や交流など、ホ-ムが抱えている課題を運営推進会議で相談しながら進めていくためにも、今後は2か月1回の定期的な開催に努めてほしい。</p>
6	9				
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホ-ム便り「かけはし」を2か月に1回発行しており、居室担当者からの一言を添えて家族に送付している。金銭管理は定期的に、健康状態についてはその都度報告を行っている。職員の異動等は家族の訪問時に説明し理解を得られるようにしている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・要望等を自由に出せるように意見箱、ノ-トを置いているが意見等は出されない。面会時や電話連絡等の際に意見・要望を出してもらうように努めている。利用者の衣類の管理等について出された意見は運営に反映させている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>基本的に法人内の異動は最小限になるよう配慮している。やむを得ず異動となった場合には、管理者から、その都度利用者や家族に説明し理解を得られるようにしている。</p>		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で内部研修を月に1～2回実施している。全職員が段階的に外部研修に参加できるよう配慮しているが、個別計画や年間計画を立てて受講させるまでにはなっていない。		限られた職員体制の中で年間計画を立てることは難しい面もあるが、例えば、認知症介護実践者研修に年間1名は参加させるなど職員育成に関しての方針等を検討してほしい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し、研修会への参加や情報交換を通じて、サービスの質の向上に活かしている。		
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している(小規模多機能居宅介護)			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と一緒に生活するという意識を持ち、午後に利用者との「関わりの時間」を設け、ゆったりと話し合う時間を過ごしている。その中で昔のことや料理のことなどを教えてもらうことが多い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	認知症介護研究・研修東京センター方式により、心身の情報、暮しの情報等を、日々の関わりの中での言葉や行動などから利用者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	居室担当者を含め関係する職員で検討会議を開催し、介護内容の評価を行い、本人・家族の希望を聞き、介護計画を作成している。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3か月毎に見直しを行い、状態変化があった場合は随時見直しを行っている。		利用者の状態に変化がない場合でも、実情に応じたケアとなるよう1か月に1回程度は、利用者、家族等の意向の確認が望まれる。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(小規模多機能居宅介護事業所のみ記入)					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている(小規模多機能居宅介護)	/	/	/

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、かかりつけ医の希望を聞き、希望がない場合は協力医療機関をかかりつけ医としている。受診には職員が同行し、必要な情報提供を行い、適切な受診が行われるよう支援している。受診結果は、その都度家族に報告をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、重度化した場合の対応について家族等と話し合いを行っている。看取りについては職員間において話し合いを行っているが、今の職員体制では難しい現状にある。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや、トイレ誘導、個人的な話題は居室で対応するなど配慮している。個人情報事務室に適切に保管・管理されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床が遅くなっても強制的に起こすことはしないなど、一人ひとりのペースを大切に、食事、散歩、買い物等、希望にそって支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は職員と利用者が一緒に考え、盛り付け、配膳、片付け等も一緒に行っている。職員は利用者の食事を見守り、必要に応じて介助しているが一緒に食事はしていない。		グループホームの特性をふまえて利用者と一緒に食事を楽しめるようにすることを検討してほしい。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能であるが、利用者の意向を取り入れ1日おきとしている。季節ごとの花(紫陽花、桜、菖蒲等)を浴室に飾り香りを楽しむなど入浴を楽しめるよう支援している。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている(認知症対応型共同生活介護)	食事の準備、盛り付け、配膳、片付け、部屋の掃除、洗濯物たたみ等、利用者一人ひとりが力を発揮できるよう場面づくりをしている。皆で歌を歌ったり、テレビやドライブを楽しんだりしている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している(認知症対応型共同生活介護)	利用者のその日の状況や希望に応じて、買い物、ドライブ、関連事業所への訪問など外出の機会を作っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	外出傾向のある利用者は特に注意して見守り、職員同士の声かけ、部屋の見回りをするなどして常に利用者の所在確認をし、日中は玄関、居室の鍵はかけていない。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回避難訓練を実施している。近隣住民の協力について運営推進会議に提起し、運営推進会議のメンバー(住民代表)を通じて地域住民の協力を得ている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一週を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日常的に食事量、水分量の把握を行っている。特にチェックが必要な利用者については個別に対応している。協力病院の栄養士により献立表の指導を受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	気温、日差し等は適切に調節されており、適切に換気がなされている。共有空間の飾りつけや家具の配置等にも生活感が感じられる。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には整理タンス、椅子等が配置されており、それ以外は家族の写真、ラック等が持ち込まれているが全体的にはさっぱりとした印象で画一的である。		利用者本人の希望を尊重し、家族の理解や協力を得ながら、好みの家具や思い出の品などを居室に置き、その人らしい個性的な居室になるようさらに取り組みで欲しい。

 は、重点項目。

3 評価結果に対する事業所の意見

事業所名 グループホーム レインボー
記入担当者名 夏井 和代

評価結果に対する事業所の意見

特になし

評価結果に対する「事業所の意見」の記入について

意見については、項目 を記入してから内容を記入してください。